



# カノン

music by Johann Pachelbel / arranged by Kotaro Oshio

Tuning = D A D G B D

Mini Guitar = F# C# F# B D# F#

Intro

F# C# D#m A#m B F# G#m7 C#7

C#7 F# C#7 D#m A#m B F#

A

B C#7 F# C#7 D#m A#m B F#

B C#7 F# C#7 D#m A#m S B F#

0 0 0 3 5 0(2) 0 2 3 2 3 2 2 2 0 0 4 2 0 7 7 7 9 5 4 2 0 5 4 2 3 2

B C#m F# C#7 D#m A#m B F#

0 2 0 0 2 3 4 2 2 0 4 4 3 3 2 2 2 0 0 0 2 0 4 3 0 4 0 9 0 0 6 7 6 0 7

B C#7 F# C#7 D#m F#m

9 0 5 0 11 0 10 0 12 10 7 5 7 7 5 7 6 5 0 6 4 3 2 4 3 4 0 2 0 2 0 2 4 0 7

B F# B C#7 F# C#7

9 0 7 0 4 7 4 7 0 7 4 0 7 9 0 7 5 0 6 9 11 0 10 9 11 12 10 12 10 7 7 5 7 7 5 5 7 5 2 3 2 4 3 2 4 5 5

D#m A#m B F# B C#7

4 3 2 4 0 2 0 2 0 2 4 0 2 0 0 3 2 0 2 0 2 4 0 4 5 0 2 4 0 2 0 0 0 3 4 2 3 4 2 0 2 2 3 4 2 0 5 6 7 5 7 7

(D.S.time 3times Repeat)

First system of musical notation. Chords: F# (C), C#7, D#m, A#m, B, F# (to C). Includes guitar tablature and fret numbers.

Second system of musical notation. Chords: B, C#7, F# (D), C#, D#m, F#m. Includes guitar tablature and fret numbers.

Third system of musical notation. Chords: B, F# (B), C#, F# (C#7), D#m, F#7. Includes guitar tablature and fret numbers.

Fourth system of musical notation. Chords: B, F# (B), C#. Includes guitar tablature and fret numbers. Ends with "D.S." marking.

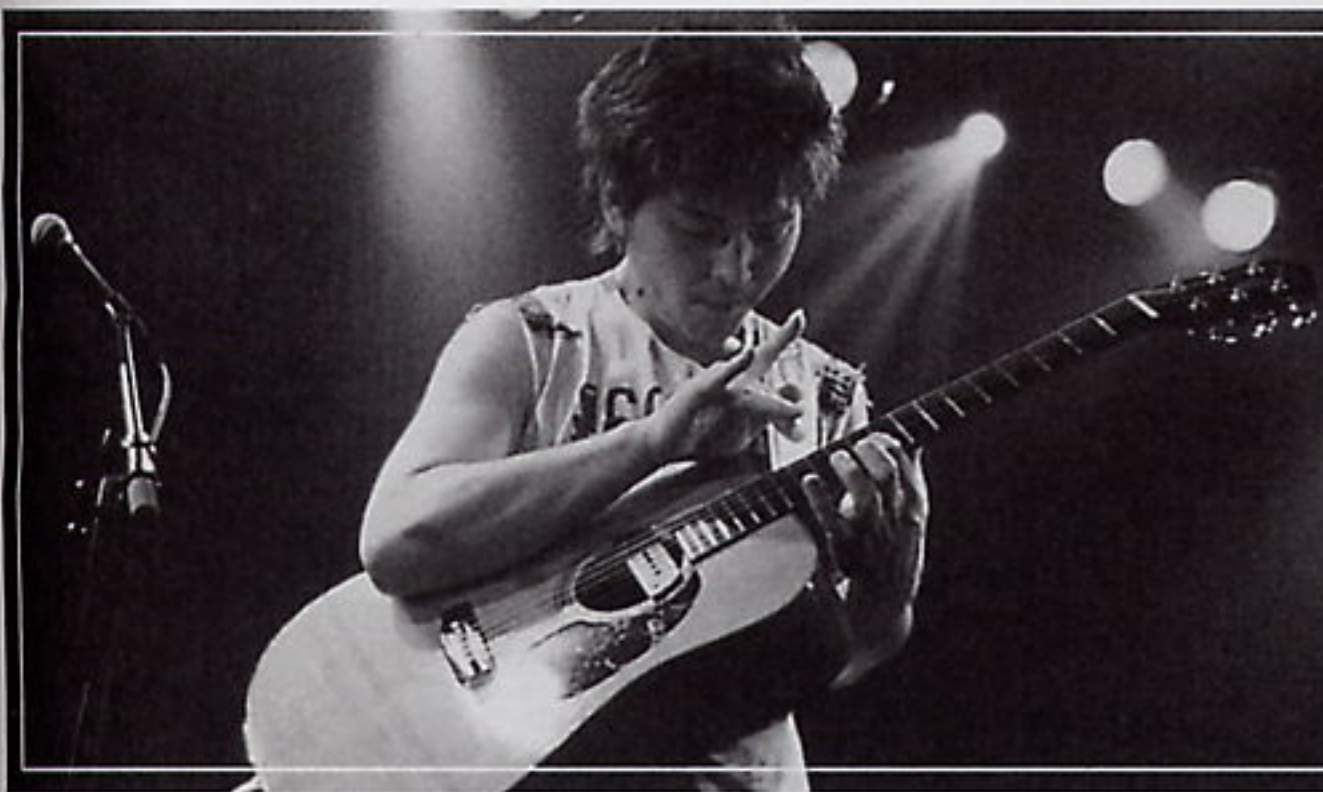
Fifth system of musical notation. Chords: B, C#, F# (E), C#7. Includes guitar tablature and fret numbers. Starts with "Coda" marking.

Sixth system of musical notation. Chords: D#m, A#m, B, F# (Bm), C#, F#sus4, F#. Includes guitar tablature and fret numbers.

# PLAYING ADVICE

奏法解説

## カノン



### ●チューニング

Tuning = D A D G B D

6弦を1音下げる (4弦開放を基準に、オクターブ下)  
1弦を1音下げる (4弦開放を基準に、オクターブ上)

実際の演奏はTACOMAの'Papoose'だが、通常のギターで演奏する場合は、カポタストを4フレットに付けると同じ音程で弾ける。しかし、ハイ・ポジションではかなり辛い押さえになる。楽譜はスタンダードなギターよりもMajor 3rd (長3度) 高い、オリジナル・キーでの採譜になっている。

ミニ・ギターで演奏する場合はレギュラー・チューニングを

Mini Guitar Tuning = G# C# F# B D# G#

にしたうえで更に

Mini Guitar Tuning = F# C# F# B D# F#

6弦を1音下げる (4弦開放を基準に、オクターブ下)  
1弦を1音下げる (4弦開放を基準に、オクターブ上)

この曲で使用されている“TACOMA Papoose”は小型のギターで、スタンダードよりもMajor 3rd (長3度) 音程が高いギターだ。楽譜はオリジナル楽器、オリジナル・キーでの採譜になっているが、スタンダードなギターで弾く場合にはタブ譜を参考にして、その位置を押さえて演奏しても良いだろう。(但し、楽譜の音程とは異なる。)カポタストを4フレットに付けると“Papoose”と同じ音程で弾けるが、ハイ・ポジションではかなり辛い押さえになってしまう所がある。

【A】では、各拍のトップの音(メロディー)が4分音符の長さでつながるようにして、間の音(裏拍の8分音符)を少し弱めに弾き、それを、ベースの2分音符が支えている。という感じが出せると3声部が独立して聞こえてくる(譜例①)。

【B】の5小節あたりから3度のメロディー進行がある。1本の指(人差し指を多用している)で、2本の弦を同時にピッキングしている(譜例②)。

【C】4小節のフレーズはダルセーニョ(D.S.)の時に3回繰り返されるが、繰り返すたびにクレッシェンドして盛り上げていく。

【E】は落ち着いた感じできっとりと終わっていくようにする。3声部が聞こえてくるようにきれいに弾こう。

クラシックではおなじみの曲だ。すべてのポピュラー・ミュージックの基本とも言える循環コードの繰り返しだが、見事に展開していく。

### 譜例①

各拍の頭の方で弾き(低音部が)その拍のメロディーを支えているような感じで演奏する。

### 譜例②

各弦の音量が均等になるように注意。

